

1. 経緯と目的

岸和田城天守閣は、昭和29(1954)年に富山城に次いで戦後2番目に再建された復興天守である。令和元(2019)年7月に実施した耐震診断で、震度6強以上の大地震時に倒壊または崩落の危険が高いという結果となった。国名勝岸和田城庭園(八陣の庭)を俯瞰する視点場として重要である上、市のシンボルとして市民に認知されている岸和田城天守閣を、今後も本市の発展に寄与する施設として後世に残していくために耐震対策を実施する。

2. 天守閣の概要

所在地 〒596-0073 大阪府岸和田市岸城町9番1号
建物規模 地上3階(敷地面積5,494.1㎡)
建設年月 昭和29(1954)年11月
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造



3. 天守閣の価値

- 天守閣は八陣の庭の眺望景観を構成する視対象と、天守閣から八陣の庭を俯瞰する視点場として重要な機能を併せ持っている(八陣の庭の重要な構成要素としての価値)
- 戦後の復興天守のなかで、富山城に次いで2番目に古い天守である(歴史的建造物としての価値)
- 天守閣は八陣の庭と府指定史跡岸和田城跡の2つの文化財に関わる施設として、歴史資料等の展示を行っている(展示施設としての価値)
- 天守閣は市民の誇りであり、今も市のシンボルとして存在している(市民の愛着と誇りとしての価値)

4. 天守閣活用の計画

～基本方針～ 耐震対策後の天守閣は、岸和田市及び岸和田城に関する歴史等の情報発信及び観光、文化、地域の情報発信機能を持った施設として活用する。耐震補強及びバリアフリー化により、活用できるスペースが大幅に減少することにより、現在の天守閣が持つ、歴史資料の展示及び収蔵機能は、維持できないため、別途展示の構想を策定し周辺での実物資料展示を検討する。

【天守閣の活用】

- 展示：パネル展示等のスペースに応じた方法で、岸和田市及び岸和田城や八陣の庭の歴史、観光、文化等に関する展示を実施する。
- その他の活用：眺望機能を維持する。

【その他周辺施設の活用】

- 展示：現在天守閣が持つ実物資料展示ならびに収蔵機能については、周辺施設に移動する。1階の常設展機能を多聞櫓・隅櫓、2階の企画展機能を観光交流センター、収蔵機能を多聞櫓・隅櫓と観光交流センターに移動予定であるが、詳細は別途展示の構想を策定の上検討する。
- その他の活用：観光交流センターは、展示機能等を新たに設置した場合も、観光客や地域住民の憩いの場としての機能を維持する。

5. 耐震補強の計画

～基本方針～ 利用者の安全性を考慮し、市有建築物耐震化実施計画に基づき、「倒壊または崩壊する危険性が低い」とされるIs値0.75以上となる補強を実施する。

※石垣が築城時からの遺構のため、その保存を目的として天守台石垣調査と地質調査を実施。調査により、影響が出る可能性の低い耐震補強設計が可能かつ、今後石垣が破損等した場合も修復が可能。

【耐震補強工法】

耐震補強工法としては、天守閣の価値を維持しつつ、施工可能な工法のうち、最も安価となる在来RC造壁ノンアンカー接着工法※を中心に設計する。(補強壁の設置予定箇所は次頁に記載)

在来RC造壁ノンアンカー接着工法とは…建物内にRC(鉄筋コンクリート)造の耐震壁を増設する補強方法。増設する耐震壁と既存の建物との固定には専用の鋼板と接着剤を用いる。



施工の様子

6. バリアフリー化の計画

～基本方針～ 多くの方が安心・安全に利用できるようバリアフリー化を実施する。

【庭園路から天守閣(大天守内)1階】

車いす利用者等も安心・安全に見学できるように小天守の北東側に階段と階段昇降機及び渡り廊下を設置し、大天守の南東側出入口にスロープを設置する。また、渡り廊下からスロープまでの通路は舗装する。

【大天守内の各階への移動】

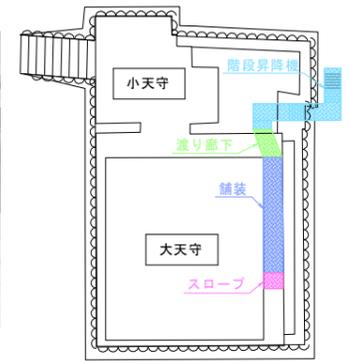
大天守にエレベーター(11人乗り程度)を設置する。

【大天守3階から望楼の渡り廊下への出入】

南東側出入口にスロープを設置する。



階段昇降機イメージ



階段昇降機等設置箇所

7. スケジュール

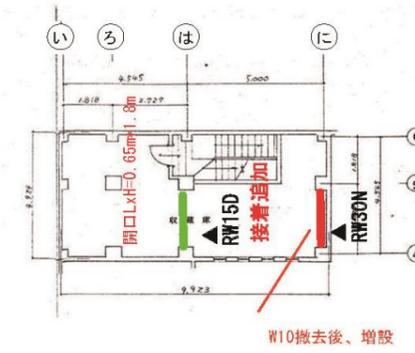
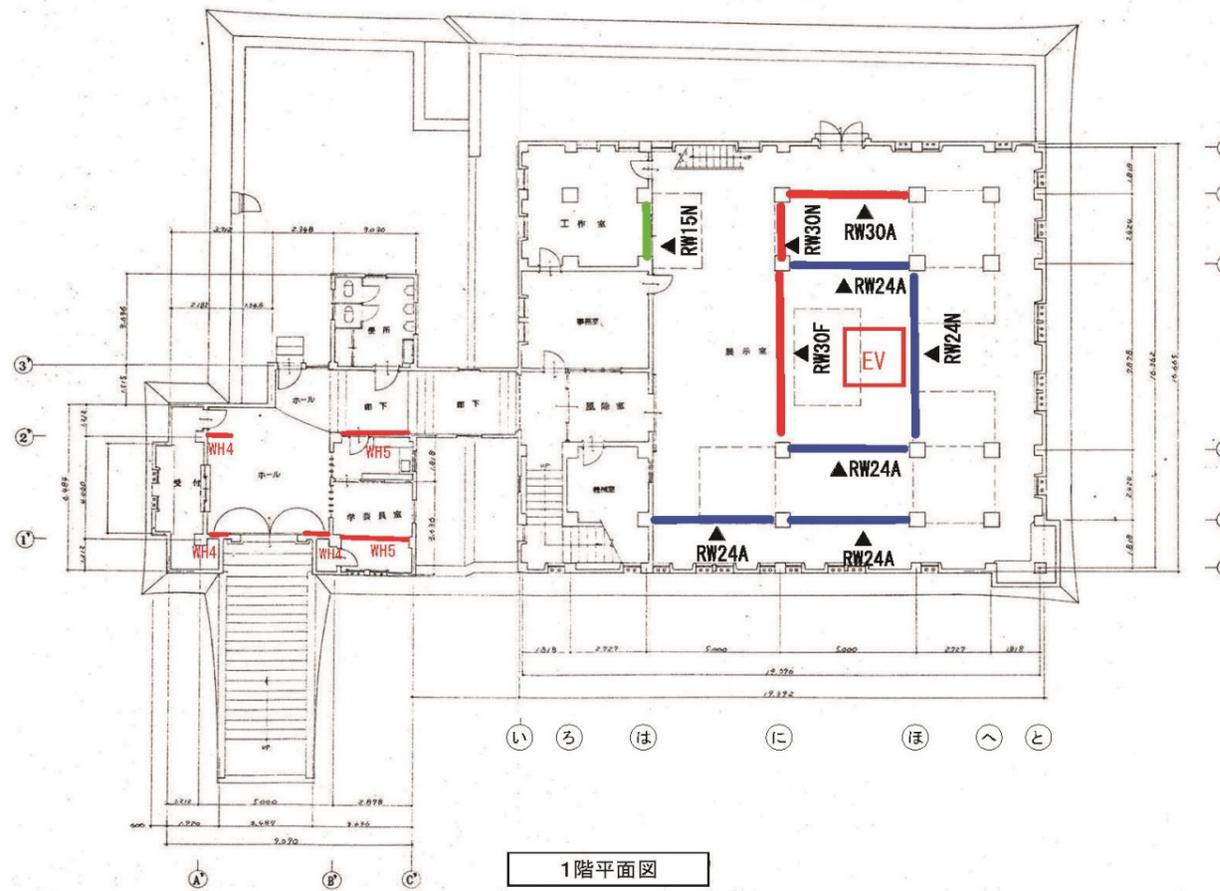
改修工事までのスケジュールを下記に示す。※変更する場合がある。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
天守閣耐震	基本計画策定					実施設計	施工	
周辺施設整備※		展示構想策定		実施設計	施工	曝露期間	資料搬入	
資金調達		ふるさと寄附及びクラウドファンディング等実施						

※多聞櫓・隅櫓、櫓門及び二の丸広場観光交流センター

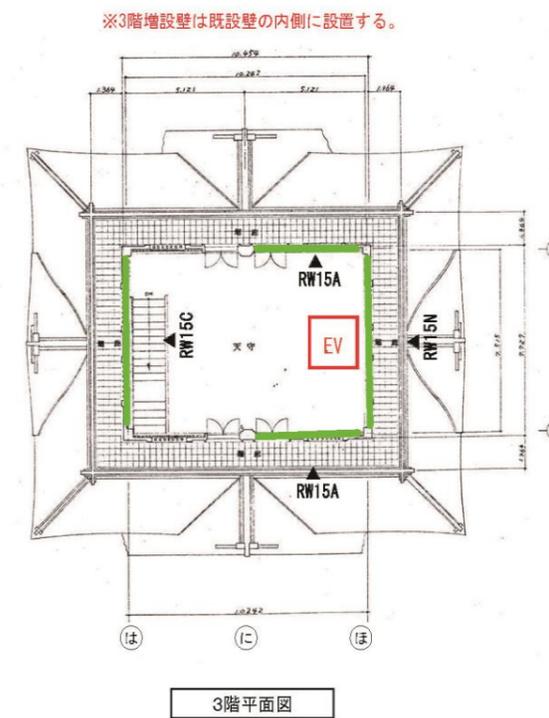
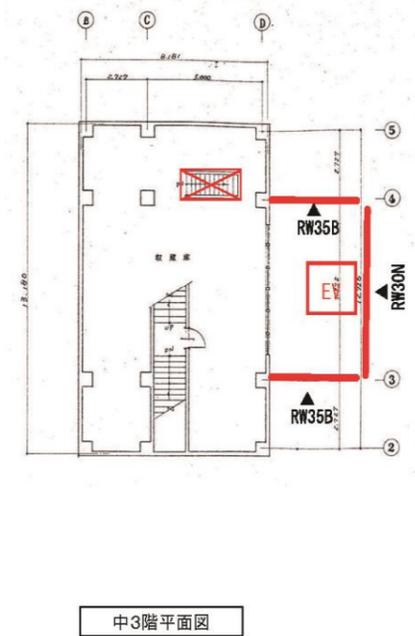
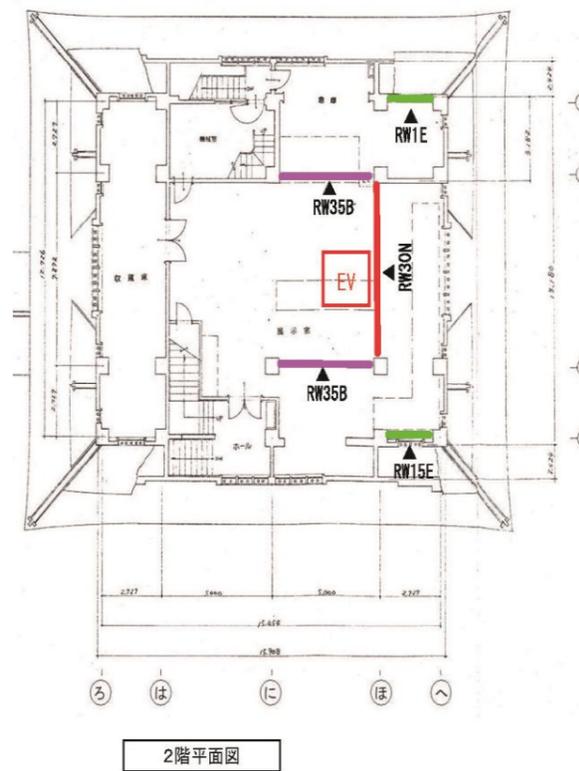
8. 事業費の計画

天守閣の耐震補強及びそれに伴う改修費とバリアフリー化の費用は概算で約2.8億円である。他にも天守閣補強後の内部改修や、現在天守閣にある展示・収蔵機能の移転先の整備については、別途費用が必要である。財源確保の方策として、国庫補助及び起債の活用を検討するとともに、岸和田城天守閣耐震対策に係る観光活用及び資金調達検討連絡調整会議において、ふるさと寄附やクラウドファンディング等の検討を進める。



大天守閣記号説明

RW	○ ○ △	壁厚 (cm)
○ ○	:	開口寸法 幅×高さ
△	:	無開口
N	:	1500×2000
A	:	1200×2000
B	:	1520×1420
C	:	650×1800
D	:	1000×1000
E	:	2200×2200
F	:	



補強壁の設置予定箇所